

2.1 財団創立35周年をお祝いで



一般社団法人科学技術と経済の会
(JATES)

会長 **野間口 有**

一般財団法人新技術振興渡辺記念会が創立35周年を迎えられましたことを心よりお慶び申し上げます。

貴財団が科学技術の調査研究活動やそれらへの助成、奨励を通じて、新技術の振興とわが国の産業発展に着実に寄与されておられることに対しまして深く敬意を表します。

不確かさが増す世界の中で、わが国の大きな方向性として、科学技術をベースにイノベーションを通じて新技術、新産業を創生し、産業力の強化を図ってグローバルに対処していくことが求められています。21世紀に入り長引く低成長の影響もあってわが国産業の競争力が弱くなったと懸念する向きも多いようです。その中であって科学技術と経済の会は、イノベーションこそが日本再生の道と考え、2005年頃から、いち早くイノベーションを主題にしたシンポジウムや講演会を催し、イノベーション志向型経営研究会を立ち上げるなど各種の取り組みを行って参りました。例えば、2010年から2年間に亘り実施した産業競争力委員会では、わが国産業力の現状を世界と比較しながら分析し、世界の潮流の中で求められるビジネスモデルの検討を行いました。

この時期に渡辺記念会館からは、科学技術および産業強化に向けたファクトファイディング、技術のメガトレンドとビジネスモデルの将来像、さらにそれらの総集編としての21世紀型産業技術ビジョン形成という委託調査を受けたのであります。それらの成果を元に当会では科学技術イノベーション専門委員会を発足させ、さらに2012年度には「技術経営・イノベーション賞」をスタートさせました。「技術経営・イノベーション賞」は優れた技術に基づき顕著なイノベーションを起こした案件を発掘し表彰するものでありますが、今年で第6回目となります。現在は、文部科学大臣賞/経済産業大

臣賞/会長賞と規模も拡大し、受賞分野も幅広くなって知名度や認知度が高まってきています。これも当初から渡辺記念会殿からの協賛をいただいている賜物であります。

この数年、日本の産業界はアベノミクス政策の効果や円安傾向の影響を受けて、底堅い動きをみせていますが、トランプ政権の経済政策や英国のEU離脱など、経済を取り巻く環境は先の見通せない状況が続くものと思われます。一方、世界的に科学技術の進展は目覚ましく、特にビッグデータを活用するAI、IoT等の技術は社会や産業構造に大きなインパクトを与えつつあり、新しい大きなビジネスの可能性も高まっています。こうした中で科学技術と経済の会は、実践的なイノベーション戦略を学ぶ研究会と価値ある情報をデータから創出する研究会を新たに再編して立ち上げました。また従来の技術経営研究分野では、働き方改革－生産性向上とワークライフバランス、健康長寿社会とビジネス創出、サービスイノベーション技術経営などの各種委員会、幹部人材育成分野ではワーキングライフ研究会やマネジメント研究会などの活動を継続して行っております。以上のような調査研究活動においても、貴財団のご支援をいただきながら、内容の充実と成果の普及に努めている状況であります。

より広く世界に目を向ければ、環境・エネルギー・資源、食糧、気候変動、貧困、雇用、災害・テロなど対策が必要な課題が依然として多くあり、わが国の産業活動もこうしたグローバルな課題解決の枠組みを意識せざるを得ないようになってきています。国際連合で2015年9月に採択された17の持続可能な開発目標（SDGs）では、先進国産業界の取り組みが期待されております。これらの目標を達成するには、産学官連携と科学技術振興に基づくオープンイノベーションの役割が重要であると考えられます。当会としましてもこれまでの知見を活かして、こうした分野についても貴財団をはじめ関係各位のお知恵を借りながら積極的に取り組んでまいりたいと思います。

科学技術と経済の会は昨年創立50周年を迎えました。貴財団のご支援のもと本年2月には記念式典、書籍発行などいくつかの記念事業を執り行わせていただきました。次なる50年へ向けて新たなスタートを切ったところではありますが、今後とも異業種、異業態の多様な企業や関係団体の参加をいただき、産業界が抱える課題の解決に務め、産業競争力およびイノベーション創出力の強化を目指して、活発な議論、情報発信を行っていく所存であります。これまで同様、様々な形で貴財団からの温かいご支援をお願いする次第です。

貴財団の益々のご発展を祈念し、お祝いの言葉とさせていただきます。